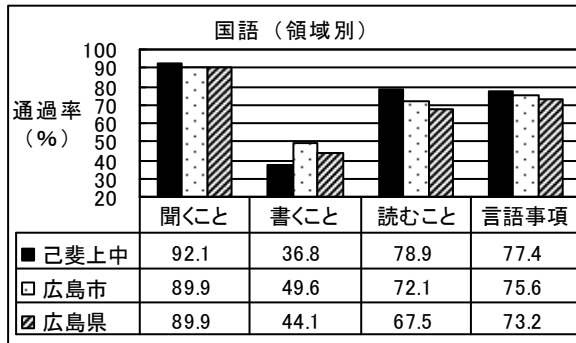
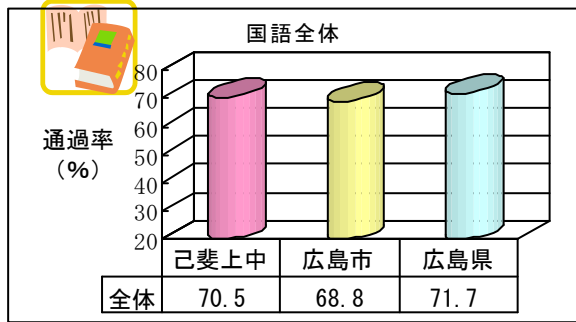


# 基礎・基本定着状況調査の結果

## ★国語

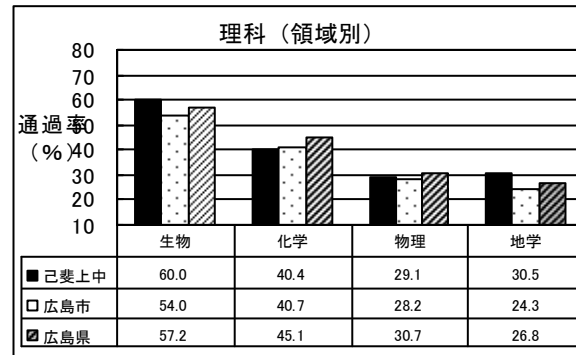
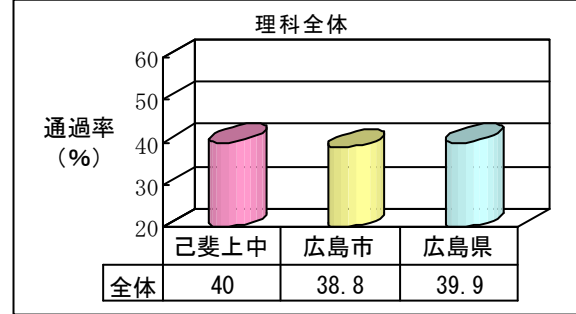


## 調査の概要

○日時 平成 25 年 6 月 11 日 ○対象 第 2 学年

○教科 国語・数学・理科・英語

## ★理科



本年度は、県平均との比較では 1.2 ポイント及ばなかった。領域別にみると、「書くこと」が 7.3 ポイント、県平均を下回っている。他の 3 領域に関しては、県平均を上回る結果となった。

各項目では、「書くこと」の「表記や語句の用法の確認」が大変低い通過率となった。これは、文における主語と述語のねじれを直す設問であったが、ねじれに気づくことはできたものの、求められた内容を正しく理解して表現することができなかったためと考えられる。同じように、「叙述の仕方の確認」についても、設問で指示された 3 つの条件を拾い切れなかったため、不十分な表現となり、低い通過率となった。

自分の意見を書く際に、結論を先行し、次に理由を述べる型は身につけてきており、「書くこと」への抵抗も少なくなってきたものの、示された条件を把握して、2 つの事柄を結び付けて文章を作成することを苦手としていることが伺える。

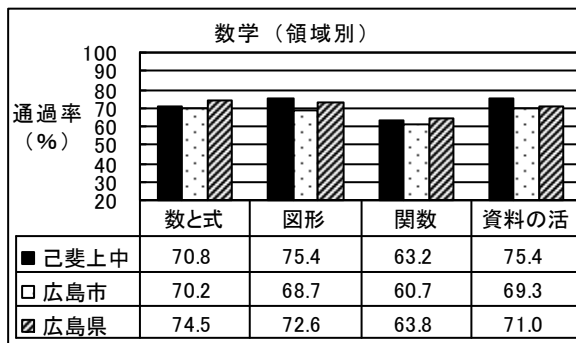
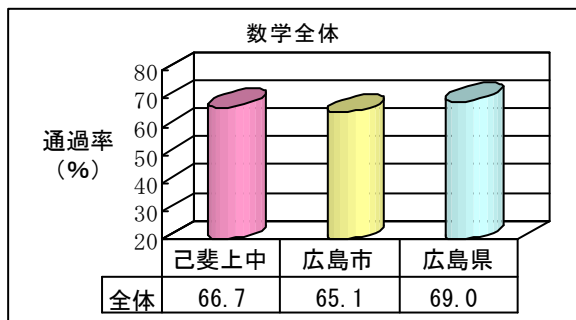
今後は、条件付きの作文課題を用いて、条件内容の把握を正確に行い、作成した文章がその条件を満たしているかを確認する活動を行い、指導していきたい。

本年度は、県平均との比較で 0.1 ポイント上回る結果となった。領域別では、「生物」は 2.8 ポイント、「地学」は 3.2 ポイント、県平均を上回ることができたが、「物理」・「化学」は県平均及び市平均を上回ることができなかった。(ただし、「物理」は市平均を 0.9 ポイント上回っている。)

「生物」・「地学」の領域では、知識・理解が中心になるため、覚えておけば結果を出すことが容易であるのに対して、「化学」・「物理」の領域では、科学的な思考・表現が中心となるため、基礎的・基本的な知識・技能の習得や言語活動の能力が問われると考えられる。そのため、県平均を下回ったと思われる。

今後は、昨年度から取り組んでいる「KUデザイン」をもとに、基礎的・基本的な知識・技能の習得の充実と、言語活動の充実として「自分の考え」をもち表現することができる生徒の育成という共通認識をもって、理科をはじめ各教科で取り組むことで、力をつけさせたい。具体的に理科では、観察・実験プリントで目的やねらい、疑問をはっきりさせ、またその疑問に対してどのように考察していくのか、考える道筋もプリントに提示して、考えさせるきっかけにしたい。

## ★数学



県平均との比較では 2.3 ポイント及ばなかった。領域別では、「図形」は 2.8 ポイント、「資料の活用」は 4.4 ポイント、県平均を大きく上回ることができたが、「数と式」「関数」は上回ることができなかった。市平均との比較では、すべての領域において上回ることができた。

「数と式」については、特に「一次方程式の立式」「関係を文字式で表す」の項目の通過率が低い。これは、問題文から数量関係を見つけ出す力の不足と、複数の関係式が考えられる中で、問題に適した式が分かる理解力の不足が考えられる。

数量関係の読み取りは「数と式」の領域以外にも必要な力である。今後は、課題に対して、解決のための手順を、類題を繰り返し解くことでパターン化させ、身に付けさせたい。また、問われている内容の理解、問題文の着目点の確認を繰り返し、根拠に基づいた解答ができるように指導していききたい。

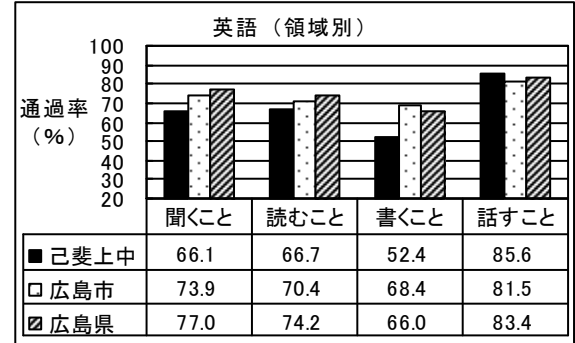
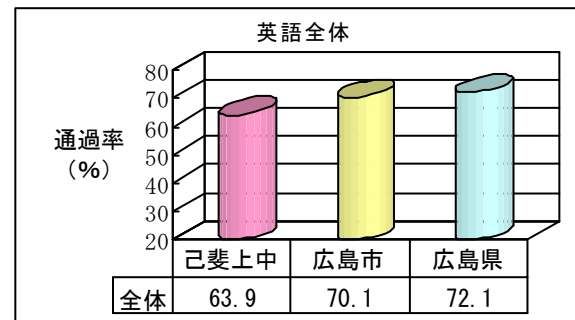
計算練習を継続して行ってきたことが、成果にもつながっていると考えられる。家庭でも継続して取り組める課題を出していき、力を身に付けさせたい。

本年度は県平均を 8.2 ポイント下回る結果となった。

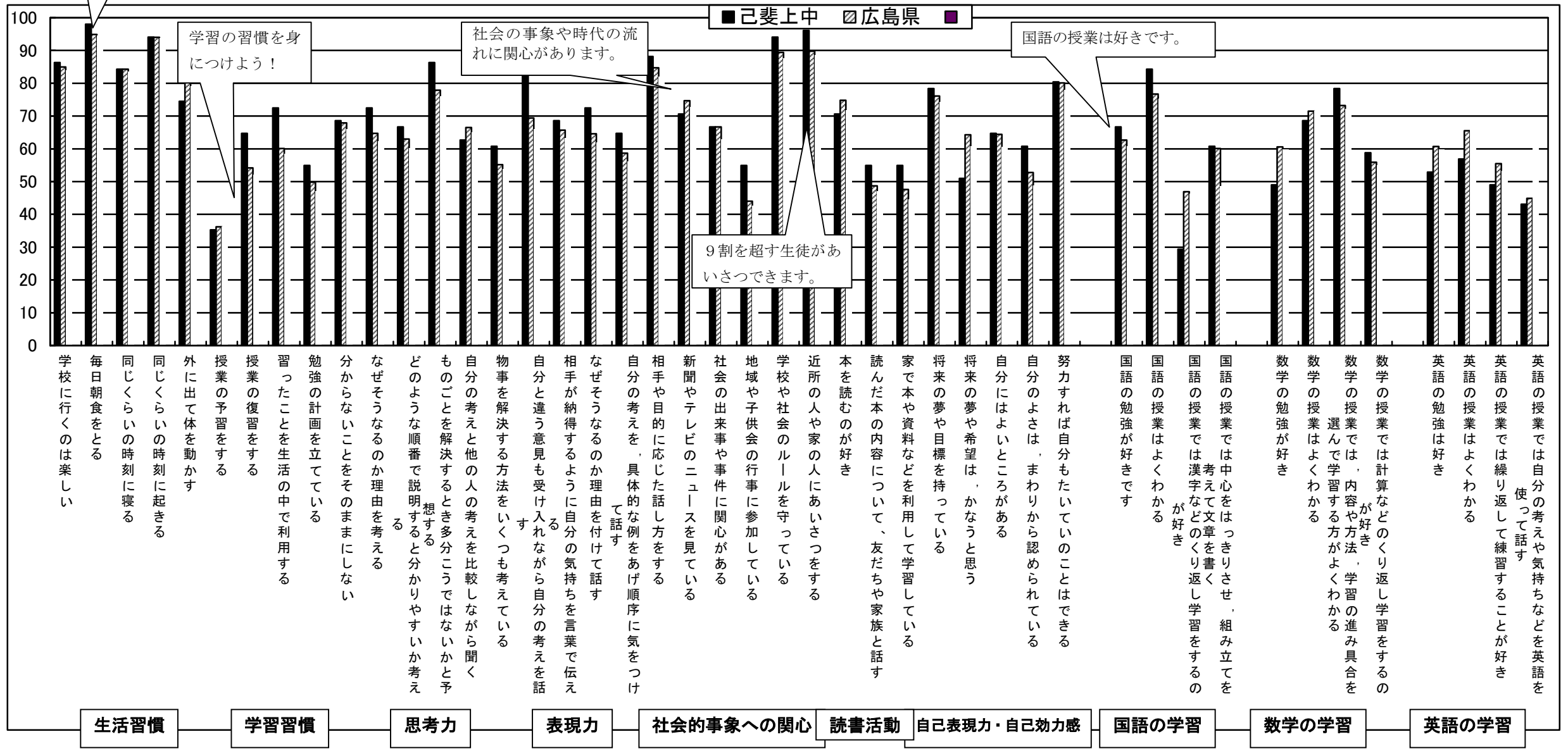
「話すこと」に関しては自分の考えや気持ちを英語でコミュニケーションをとろうとする意欲はとても高く、かろうじて県平均を上回った。しかし、単語や単文による受け答えも目立ち、Quick Response などのドリルを行い、会話を継続させるためのスキルを学習させたい。

また、「聞くこと」、「読むこと」、「書くことに」に関してはかなり課題が残った。重要文型のドリル学習、単元のプリント学習、小テスト、グループ活動等を通じて定期テスト等ではまずまずの理解を示しているが、基本的に英単語が身に付いていないことも原因のひとつと考えられる。しかし、総合的な問題になると英語の資料から情報を読み取り、前後のつながりを考えて英文を書いたり、情報をもとに自分の考えを伝える英文やその内容をまとめ英語の文章で表現するなど日頃、学習したことを活用する力が弱い。その対応として教科書のリーディングに速読やシャドーイングを取り入れたり、リスニングやディクテーションに取り組むことで英語の活用力を高めるとともに家庭学習に頼りがちであったライティングを、授業中に時間をかけるなどして課題を改善していききたい。

## ★英語



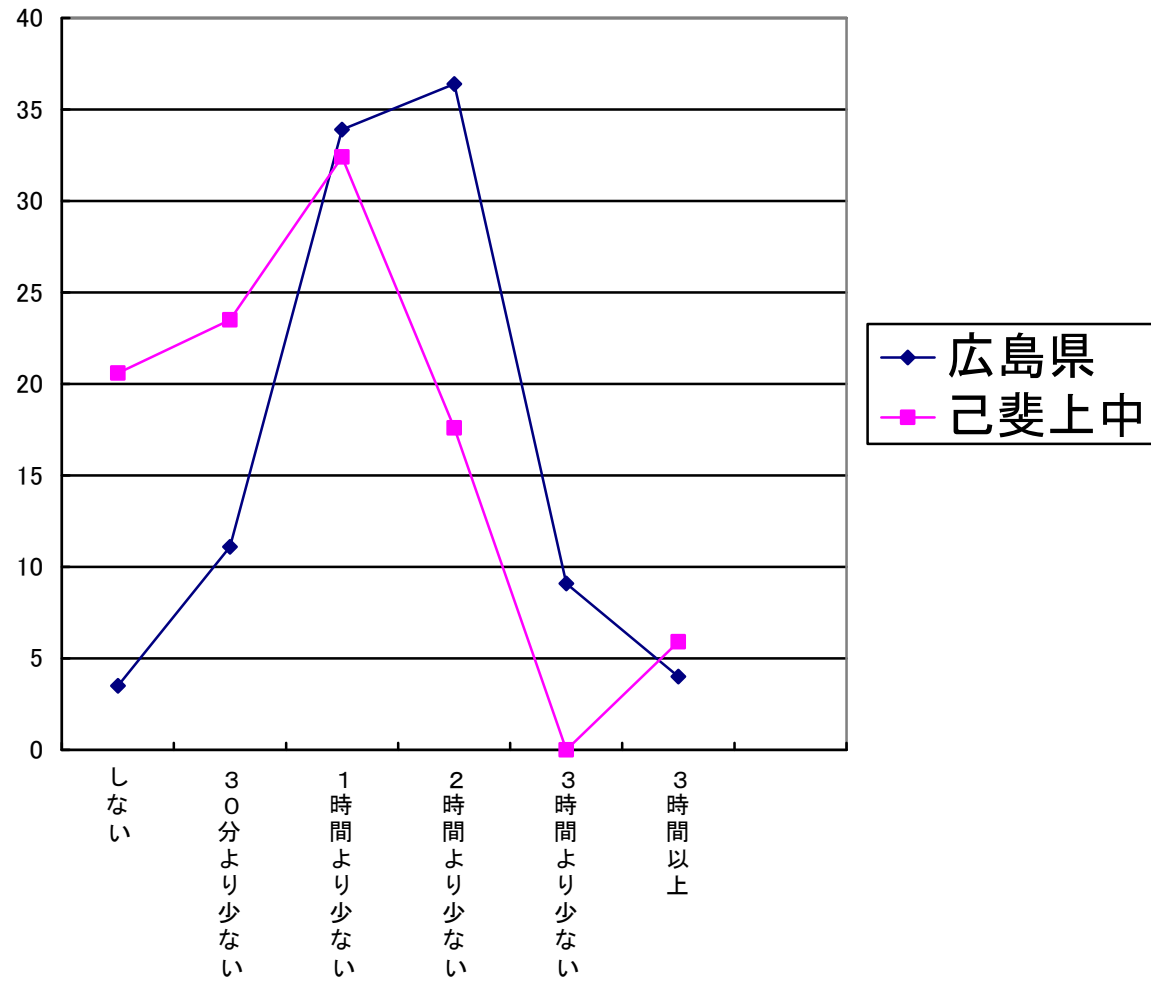
# 生活と学習に関する意識・実態調査



## 生活と学習に関する意識・実態調査より

- 生活習慣に関して、「学校に行くのは楽しい」と回答している生徒は県平均を越えている。また、ほぼ全員が朝食を取っている。県平均と比較しても「あまりあてはまらない」や「あてはまらない」と回答した生徒はごく少ない。そして、本校の数値は昨年よりも向上している。起床、就寝時間にしても県平均と並ぶ数値である。が、平日で4割以上の生徒が3時間以上テレビを見たりゲームをしたりしている生徒がいる。休日に至っては約5割の生徒がテレビを見たりゲームをしたりしている。この数値は県平均を大きく上回っている。これは学習習慣の定着などにも関係してくると考えられるので、家庭と連携を取り、改善を図りたい。
- 学習に関して、授業の復習をしたり、計画を立てて学習することについては県平均を10ポイント近く上回っています。しかし、学習習慣に関しては県平均よりも1時間近く短い結果が出ています。今後、家庭での予習復習を生かしながら、学習習慣を身につける取組や各教科の課題の工夫など改善していきたい。
- 社会的事象への関心に関しては、昨年同様に地域の中で「近所の人や家の人に挨拶をする」はほとんどの生徒ができており、県平均を上回っている。さらに「地域や子供会の行事に参加をしている」では、県平均を10ポイント以上、上回っているなど、地域の皆さんに育てられ、見守られている様子が映し出されていると思われます。
- 自己表現力・自己効力感に関して、「将来の夢や目標を持っている」「自分にはよいところがある」「努力すれば自分もたいていのことはできる」「自分のよさは、まわりから認められている」の割合は県平均を上回っているが、「将来の夢や希望はかなう」の割合は10ポイント近く低くなっている。今後、達成感を味わわせ、生徒の自信につながる取組を工夫していきたい。

ふだん、家では、1日何時間くらい勉強していますか  
(月～金)



休日、家では、1日何時間くらい勉強していますか  
(土曜・日曜・祝日など)

